



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年2月7日

上場会社名 日本山村硝子株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5210 URL <http://www.yamamura.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山村 幸治
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 荒木 陽一 TEL 06-4300-6000
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	54,365	△1.7	527	△45.0	483	△59.4	921	23.4
25年3月期第3四半期	55,331	0.4	957	△46.0	1,189	△45.8	746	△33.9

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 2,700百万円 (98.8%) 25年3月期第3四半期 1,358百万円 (893.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	8.77	—
25年3月期第3四半期	7.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	95,068	55,301	58.1
25年3月期	93,278	53,519	57.3

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 55,251百万円 25年3月期 53,471百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	3.00	5.50
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,000	0.7	△500	—	100	△80.6	600	186.5	5.71

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期3Q	111,452,494株	25年3月期	111,452,494株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	6,454,064株	25年3月期	6,441,073株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期3Q	105,007,353株	25年3月期3Q	105,024,009株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

上記の予想に関連する事項は、[添付資料] 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内の経済環境は、デフレ脱却に向けた政府による景気対策や日本銀行の大規模な金融緩和策に対する期待感から、円安や株高によって一部の企業収益環境や個人消費の持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が継続しました。しかしながら、電力料金の値上げや円安による原材料価格の高騰などに加え、平成26年4月以降の消費税増税後の景気減速懸念もあり、国内景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社グループでは山村グループ創業100周年となる2014年4月に向けた4ヵ年の中期経営計画の最終年度を迎えております。この中期経営計画では「世界のYAMAMURAへ 一心と技術を伝えたい」のビジョンのもと、「パッケージング事業の再編と国際化」「ニューガラス事業の多角化」「新規事業とR&Dの推進」「グループコーポレート機能の強化」「人材基盤の確立」に取り組んでまいりました。

収益改善のため管理体制を見直した結果、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を変更することといたしました。また、前年同期のセグメント情報については、平成26年3月期の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

①ガラスびん関連事業

ガラスびん関連事業の当社ガラスびんカンパニーでは、国内需要の漸減ならびに円安による原燃料価格の上昇や電力料金の高騰等を販売価格の改定で補うべく注力してまいりましたが、小壘ドリンク等の出荷量が減少したため、セグメント売上高は34,174百万円（前年同期比2.9%減）と減収となりました。セグメント利益は、特別修繕引当金の繰入廃止や労務費、修繕費等のコスト削減を徹底したことにより354百万円（前年同期比45.3%増）と増益となりました。

②プラスチック容器関連事業

プラスチック容器関連事業では、飲料用キャップの国内出荷量が増加したことや従来非連結子会社であった山村ウタマ・インドプラスを連結対象としたこともあり、飲料用キャップの売上は堅調に推移しました。しかし、ペットボトルの出荷量はお客様の内製化の影響等により減少し、セグメント売上高は8,091百万円（前年同期比6.5%減）と減収となりました。セグメント利益は、コスト削減に注力したものの、円安による原料価格の上昇や電力料金の高騰等の影響が大きく、△98百万円（前年同期は476百万円）のセグメント損失となりました。

③物流関連事業

物流関連事業では、新規業務の受注や既存業務の取扱い物量の増加により、セグメント売上高は9,263百万円（前年同期比7.8%増）と増収となりました。しかし、新規業務の初期費用の負担増、社会保険料等の労務費の負担増、燃料費等の輸送コストアップにより、セグメント利益は21百万円（前年同期比91.5%減）と大幅な減益となりました。

④ニューガラス関連事業

ニューガラス関連事業では、山村フォトニクス株式会社の主力製品である光関連部品を中心に伸ばしました。また、当社ニューガラスカンパニーでは、主にスマートフォン、タブレット端末に使用されるセラミックスコンデンサ用粉末ガラスの出荷は伸ばしました。しかし、主力製品であったプラズマテレビ用粉末ガラスの出荷がお客様の生産が年内で終了したため減少し、セグメント売上高は2,836百万円（前年同期比2.5%減）と減収となりました。セグメント利益は、生産効率の改善、減価償却費の減少やコスト削減を進めたことにより、42百万円（前年同期は△127百万円）とセグメント利益を計上しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は54,365百万円（前年同期比1.7%減）、連結営業利益は527百万円（前年同期比45.0%減）と減収減益となりました。持分法による投資利益も337百万円（前年同期比15.8%減）と減益となり、連結経常利益は483百万円（前年同期比59.4%減）と減益となりました。特別利益に特別修繕引当金戻入額として3,541百万円等を計上し、特別損失に収益改善策に伴う損失（不要資産減損、退職加算金等）の事業構造改善費用2,458百万円等を計上した結果、連結四半期純利益は921百万円（前年同期比23.4%増）と増益となりました。

パッケージング事業の国際化として、平成25年6月28日に中国におけるワインびん等の製造・販売会社である秦皇島方圓包装玻璃有限公司の持分80%を取得しました。今後、同社を通じてさらなる国際事業の積極的展開を図ってまいります。（なお、12月末時点では増資により84.831%の持分割合となっております。）

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期における通期の業績予想につきましては、平成25年11月6日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 追加情報

(硝子溶解窯の投資方針の変更)

硝子溶解窯の修理に備えるため特別修繕引当金を計上しておりましたが、収益環境の変化を踏まえ、平成25年6月11日開催の取締役会において、当社および連結子会社における硝子溶解窯の投資方針を戦略的に見直す決議を行い、今後は原状回復のための定期修繕ではなく、エネルギー効率や生産効率の改善を企図した新たな溶解窯を構築することとしました。

その結果、従来の特別修繕引当金は、第1四半期連結会計期間においてその全額を取崩し、特別利益に計上しております。

(事業構造改善費用)

平成25年3月11日開催の取締役会で決議した収益改善策に基づき、当第3四半期連結会計期間においてガラスびんカンパニー大阪工場の操業停止および希望退職を実施いたしました。これに伴い、当第3四半期連結累計期間において、大阪工場の操業停止・閉鎖後に使用が見込まれない資産の減損損失ならびにその整理費用等および希望退職による退職加算金等を事業構造改善費用として計上いたしました。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,807	7,094
受取手形及び売掛金	19,484	18,579
商品及び製品	6,996	7,128
仕掛品	446	367
原材料及び貯蔵品	2,407	2,248
その他	1,076	1,105
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	39,207	36,511
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,134	8,864
機械装置及び運搬具（純額）	6,419	6,549
工具、器具及び備品（純額）	752	684
土地	11,319	11,327
建設仮勘定	1,055	317
有形固定資産合計	29,680	27,743
無形固定資産		
投資その他の資産	320	246
投資有価証券	3,499	4,148
関係会社株式	18,188	24,318
その他	2,434	2,143
貸倒引当金	△52	△43
投資その他の資産合計	24,070	30,567
固定資産合計	54,071	58,557
資産合計	93,278	95,068

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,134	7,278
短期借入金	5,261	6,962
未払法人税等	195	169
引当金	597	204
その他	3,221	2,925
流動負債合計	16,409	17,539
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	14,980	16,480
退職給付引当金	3,078	2,814
特別修繕引当金	3,541	—
事業構造改善引当金	—	988
資産除去債務	97	97
その他	652	848
固定負債合計	23,349	22,228
負債合計	39,759	39,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,074	14,074
資本剰余金	17,300	17,300
利益剰余金	25,667	25,675
自己株式	△1,222	△1,224
株主資本合計	55,820	55,825
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	661	1,103
繰延ヘッジ損益	△0	△57
為替換算調整勘定	△3,009	△1,620
その他の包括利益累計額合計	△2,348	△574
少数株主持分	47	50
純資産合計	53,519	55,301
負債純資産合計	93,278	95,068

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	55,331	54,365
売上原価	45,737	45,424
売上総利益	9,593	8,941
販売費及び一般管理費	8,636	8,414
営業利益	957	527
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	55	63
持分法による投資利益	400	337
その他	209	198
営業外収益合計	669	602
営業外費用		
支払利息	251	250
支払手数料	—	184
租税公課	94	90
その他	92	121
営業外費用合計	438	646
経常利益	1,189	483
特別利益		
固定資産売却益	—	9
特別修繕引当金戻入額	—	3,541
特別利益合計	—	3,551
特別損失		
固定資産廃棄損	22	33
固定資産売却損	3	—
事業構造改善費用	—	2,458
事業撤退損	—	71
特別損失合計	25	2,563
税金等調整前四半期純利益	1,164	1,471
法人税、住民税及び事業税	355	230
法人税等調整額	58	314
法人税等合計	413	545
少数株主損益調整前四半期純利益	750	926
少数株主利益	4	4
四半期純利益	746	921

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	750	926
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	442
繰延ヘッジ損益	△33	△57
為替換算調整勘定	△76	106
持分法適用会社に対する持分相当額	619	1,283
その他の包括利益合計	607	1,774
四半期包括利益	1,358	2,700
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,354	2,695
少数株主に係る四半期包括利益	4	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	35,183	8,649	8,591	2,907	55,331	—	55,331
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	1,105	9,088	5	10,205	△10,205	—
計	35,189	9,754	17,680	2,912	65,537	△10,205	55,331
セグメント利益 又は損失(△)	244	476	250	△127	844	113	957

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額113百万円には、セグメント間取引消去100百万円、その他の調整13百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	34,174	8,091	9,263	2,836	54,365	—	54,365
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18	1,102	8,648	4	9,774	△9,774	—
計	34,192	9,193	17,912	2,841	64,140	△9,774	54,365
セグメント利益 又は損失 (△)	354	△98	21	42	319	207	527

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額207百万円には、セグメント間取引消去113百万円、その他の調整93百万円が含まれております。その他の調整は、報告セグメントに帰属しない全社費用と報告セグメントに計上されている営業外損益調整等です。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を次の報告セグメントとして記載する方法に変更しました。

当社グループのセグメントは、従来「ガラスびん関連事業」、「プラスチック容器関連事業」、「物流関連事業」、「ニューガラス関連事業」の4つの報告セグメントと「その他」に区分しておりましたが、「その他」に含まれていた当社エンジニアリング事業、星硝株式会社、株式会社山村製塩所を「ガラスびん関連事業」セグメントに含めることとしました。

これは、これまで個別に管理していたそれぞれの事業について、ガラスびんに関連する事業として一体で把握することにより、ガラスびん関連事業をより効率的に管理し収益の改善を目指すものです。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	ガラス びん関 連事業	プラスチ ック容 器関 連事業	物流関 連事業	ニューガ ラス関 連事 業	合計
減損損失	547	—	611	28	1,186

※上記の減損損失は、四半期連結損益計算書の事業構造改善費用および事業撤退損に含まれております。